

2025 年度
名古屋大学大学院環境学研究科
入学（進学）試験受験案内
（第Ⅰ期募集）

本ファイルは、「2025年度名古屋大学大学院環境学研究科博士前期課程及び博士後期課程学生募集要項（第Ⅰ期募集）」の説明内容を補うものです。

受験に際しての各専攻の注意事項等が記載されています。

受験を希望する者は、必要な部分を熟読のうえ、出願の手続き等を行ってください。

名古屋大学大学院
環境学研究科

2025 年度名古屋大学大学院環境学研究科 入学（進学）試験受験案内（第 I 期募集）

目 次

●受験に際しての注意事項等

地球環境科学専攻

都市環境学専攻

社会環境学専攻

●臨床環境学プログラムの案内

●知の共創プログラム特別コースの案内

※試験会場等の建物の場所については、

<https://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/index.html> をご参照ください。

受験に際しての注意事項等

地球環境科学専攻

1. 英語外部検定試験を利用した試験科目「英語」の実施要領について（博士前期課程）

1.1 試験の方法

今回の試験で有効とする検定試験の種別については、募集要項「6. 提出書類」と「7. 選抜方法等」の「7.1.地球環境科学専攻」を参照すること。

1.2 スコアシートの提出に関する注意事項

- (a) スコアシート原本の提出がない場合、試験科目「英語」の点数が零点となるので、十分に注意すること。
- 地球惑星科学系の受験者は、募集要項「4. 出願手続き」に沿って指定期日必着で本研究科に提出すること。また、出願時にスコアシートが準備できている場合、志願票などの必要書類を送る封筒に同封し、本研究科に提出してもよい。なお、提出後のスコアシートの差し替えは認めない。
- 大気水圏科学系の受験者は、「追加入学志願調査票（大気水圏科学系）」へ必要事項を記入し、募集要項に沿ってスコアシートを提出すること。
- (b) 受付可能なスコアシートについては募集要項を確認すること。
- 例えば、IELTS ジェネラル・トレーニング、TOEFL PBT、TOEIC IP のスコアは受け付けないので、注意すること。

1.3 換算方法

- (a) 下記の換算表は、今回の試験における IELTS, TOEFL (iBT, ITP*), TOEIC の間の換算の目安を示している。
- (b) 下記の換算表は、地球環境科学専攻の今回の試験のみに適用されるものとする。

参考換算表

IELTS	TOEFL iBT	TOEFL-ITP*	TOEIC
7.5～	109～	630～	960～
7	100～108	600～630	870～960
6.5	90～99	575～600	800～870
6	80～89	550～575	730～800
5.5	69～79	520～550	650～730
5	61～68	500～520	580～650
4.5	52～60	470～500	500～580
4	45～51	450～470	440～500
3.5	33～44	405～450	310～440
3	29～32	390～405	270～310

*TOEFL-ITP については、2023年12月に名古屋大学において実施した TOEFL-ITP 試験のスコアのみ受け付ける。

2. 専門科目の出題範囲（博士前期課程）

ここでは、博士前期課程の一般選抜普通入試で行う筆記試験（専門科目）の出題範囲について説明する。過去に出題された問題については下記の環境学研究科ホームページに公表されている。

<https://www.env.nagoya-u.ac.jp/admission/index.html>

【地球惑星科学系】

地球惑星科学の基礎となる分野の以下の8問より任意の2問を選択する。

専門科目の問題名	主な出題範囲
地球環境学	気候変動，水循環，物質循環，エネルギー収支，環境容量，生態系など地球環境に関する問題。
地球科学Ⅰ	造構作用（プレートテクトニクスを含む），地球環境と生物の相互作用，陸域および海洋域における広義の堆積学，地史および地質図学に関する問題。
地球科学Ⅱ	変成岩，火成岩，造岩鉱物，岩石組織，相平衡，地殻—マントル相互作用，岩石の変形，地球内部の温度構造，変成・火成作用とテクトニクス，およびそれらに関連する地球内部ダイナミクスについての問題。
地球科学Ⅲ	元素の起源と分布，地球表層における元素循環，同位体地球化学，年代測定法，化学平衡論，地球化学実験法に関する問題。
物理学	力学および熱力学に関する問題：[力学] 質点系の運動，剛体の運動など，[熱力学] 熱力学第一法則，熱力学第二法則とエントロピー，熱力学関数と平衡条件など。
化学	原子・分子の構造，元素の性質，化学量論，化学熱力学の基礎，化学平衡の基礎，酸・塩基平衡，酸化・還元反応，気体・溶液の性質，分析化学，有機化合物の構造と結合および反応性に関する問題。
生物学	生物学，基礎生物学に関する問題：遺伝，細胞，生理，生態，分類，系統，進化，分子生物学，機能形態，生物地理など。 参考書：エッセンシャルキャンベル生物学（丸善出版）など。
数学	解析学，線形代数学，微分方程式，確率・統計に関する問題。

【大気水圏科学系】

大気水圏科学の基礎となる分野の以下の7分野より2分野を選択する。

第一志望教員が指定する受験可能分野（次ページ）の中から、希望する2分野を選択すること。

専門科目の問題名	主な出題範囲
地球環境学	気候変動，水循環，物質循環，エネルギー収支，環境容量，生態系など地球環境に関する問題。
地球物理学	気象学・大気物理学・海洋物理学に関する問題：大気熱力学，大気放射，大気・海洋に関する流体力学，降水，大気・海洋中の物質輸送，気候変動など。 参考書：「一般気象学」第2版補訂版 小倉義光著 東京大学出版会
地球化学	大気水圏科学に関連した学部で学ぶ専門科目（地球化学・環境化学・大気化学・海洋化学など）の基本的な内容：分析化学・化学実験の基本，放射性・安定同位体の環境研究への応用，大気・海洋・陸域における化学プロセスと物質循環。
物理学	力学および熱力学に関する問題：[力学] 質点系の運動，剛体の運動など，[熱力学] 熱力学第一法則，熱力学第二法則とエントロピー，熱力学関数と平衡条件など。
化学	原子・分子の構造，元素の性質，化学量論，化学熱力学の基礎，化学平衡の基礎，酸・塩基平衡，酸化・還元反応，気体・溶液の性質，分析化学，有機化合物の構造と結合および反応性に関する問題。
生物学	生物学，基礎生物学に関する問題：遺伝，細胞，生理，生態，分類，系統，進化，分子生物学，機能形態，生物地理など。 参考書：エッセンシャル キャンベル生物学（丸善出版）など。
数学	解析学，線形代数学，微分方程式，確率・統計に関する問題。

講座名	指導教員名	職名	受験可能分野*						
			地球環境学	地球物理学	地球化学	物理学	化学	生物学	数学
地球環境変動論	篠田 雅人	教授	○	○				○	
	中塚 武	教授	○		○		○	○	
	坂井 亜規子	准教授	○	○	○	○	○		○
気候科学	藤田 耕史	教授	○	○	○	○	○		○
	須藤 健悟	教授	○	○	○	○			○
	植村 立	准教授	○	○	○		○		○
	松井 仁志	准教授	○	○	○	○			○
物質循環科学	角皆 潤	教授	○	○	○	○	○	○	○
	長田 和雄	教授	○	○	○	○	○		○
	中川 書子	准教授	○	○	○	○	○	○	
	山崎 敦子	講師	○		○				
	谷本 浩志	客員教授	○	○	○				
	渡邊 剛	客員准教授	○		○				
地球水循環科学	坪木 和久	教授		○		○			○
	檜山 哲哉	教授	○	○					
	高橋 暢宏	教授	○	○		○			
	持田 陸宏	教授	○		○		○		
	相木 秀則	教授		○		○			○
	増永 浩彦	准教授	○	○		○			○
	篠田 太郎	准教授	○	○		○			○
	栗田 直幸	准教授		○		○	○		○
	藤波 初木	講師	○	○					

* 各指導教員の受験可能分野を○で示す。

3. 出願に際して

3.1 2024年度および2025年度の指導教員・教育研究内容の一覧

○別ファイルを参照のこと。

都市環境学専攻

1. 博士前期課程の案内

1.1 持続発展学コース

(1) 受験に際しての注意事項

【出題範囲及び使用言語について】

- ・ 出題範囲等については、別記1「名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻（持続発展学コース）2025年度博士前期課程入学試験（第I期）学力検查出題範囲」を参照すること。
- ・ 一般A及び留学生特別選抜の専門科目及び小論文は、日英併記で出題するので日本語又は英語で解答すること。一般Bの専門科目及び基礎科目は、日本語で出題するので日本語で解答すること。

【対面で実施する試験について】

- ・ 筆記試験を受験する者は、試験場に試験開始の30分前までに入室すること。遅刻の場合、一般A及び留学生特別選抜の専門科目は試験開始60分後、小論文は試験開始30分後まで入室を認める。一般Bの基礎科目及び専門科目は、試験終了時刻を過ぎて到着した受験生の受験を認めない。なお、試験終了時刻前に到着し、遅刻が本人の責めに帰さない場合、試験終了時刻の繰り下げを認めることがある。全ての筆記試験で試験終了時刻前の退室（早退）は認めない。口述試験及び面接については遅刻を認めない。
- ・ 筆記試験に際しては、黒鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・鉛筆削り・時計以外を使用してはならない。辞書等（電卓あるいは辞書機能付き携帯電話・時計等も含む）は使用できない。電卓に関しては、試験に必要な場合のみ大学側で準備する。

(2) 英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）を利用した試験科目「英語」の実施要領について

1. 試験の方法と注意事項

- (a) 試験科目「英語」は、TOEFL/TOEIC/IELTSスコアを次項「2. 換算方法」に従って換算することにより採点する。
- (b) 本試験で有効とする外部検定試験の種別、受験年月日、及びスコアシート原本の提出方法については、募集要項の「6. 提出書類」及び「7.2（選抜方法等）都市環境学専攻」を参照すること。

2. 換算方法

- (a) TOEFL iBTからの換算は、上限200点、下限0点として以下の式を用いる。

$$\text{TOEFL iBT スコア} \times 2.92 - 83 = \text{換算点}$$

- (b) TOEICからの換算は、上限200点、下限0点として以下の式を用いる。

$$\text{TOEIC スコア} \times 0.348 - 104 = \text{換算点}$$

- (c) IELTSからの換算は、一般的に用いられる換算表に基づいてTOEFL iBTに換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後、(a)の方法を適用する。
- (d) 以上の換算方法は、今回の試験においてのみ適用されるものとする。

(3) 面接

持続発展学コースの全教員による面接である。詳細については、試験当日配布する資料を確認の上、指示に従うこと。

(4) 入学定員

都市環境学専攻の募集人員は「学生募集要項」の記載のとおりであるが、持続発展学コースには約33名まで入学が可能である。

(5) 過去の入試問題の公表

過去の入試問題は、下記よりダウンロード可能である。

<https://sd.urban.env.nagoya-u.ac.jp/main/ja/exam/#examsamples>

持続発展学コースの入試情報については下記も参照されたい。

<https://sd.urban.env.nagoya-u.ac.jp/main/ja/exam/> (持続発展学コース入学案内)

1.2 建築学コース

(1) 試験内容について

出題範囲などについては、別記2「名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻（建築学コース）2025年度博士前期課程入学試験（第I期）学力検査出題範囲」を参照のこと。

1) 口述試験 [一般選抜（自己推薦入試）]

試験は口頭試問とする。受験者は志願票とともに提出したこれまでの学修等活動の内容と入学後の学修や研究等に関して記した自己推薦書をもとに、これまでの研究や活動等の内容や入学後の計画を口頭発表し、その内容に関して質疑応答を行う。受験者一人当たりの時間は、口頭発表30分、質疑応答30分の計1時間を予定している。

2) 面接 [一般選抜（普通入試）、留学生特別選抜、社会人特別選抜]

建築学コースの教員による面接を行う。主として、入学後の学修、研究計画及びそれに関連する事項について試問する。

3) 過去の入試問題の公表

過去の問題については下記の環境学研究科ホームページに公表されている。

https://www.env.nagoya-u.ac.jp/admission/design_exam.html

(2) 英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）を利用した試験科目「英語」の実施要領について

(a) TOEFL/TOEIC/IELTS のスコアシートは、原則として出願書類提出時にその原本を同封するものとする。原本を提出しない場合は、試験科目「英語」の点数が零点になるので十分に留意すること。

(b) 今回の試験で有効とする外部検定試験の種別、受験年月日、及びスコアシート原本の提出方法については、募集要項の「6. 提出書類」及び「7.2（選抜方法等）都市環境学専攻」を参照すること。

換算方法

(a) TOEFL iBT からの換算は、上限を200点、下限を0点として、以下の式を用いる。

$$\text{TOEFL iBT スコア} \times 1.99 - 26 = \text{換算点}$$

(b) TOEIC からの換算は、下限を0点として、以下の式を用いる。

$$\text{TOEIC スコア} \times 0.227 - 35 = \text{換算点}$$

(c) IELTS からの換算は、一般的に用いられる換算表に基づいて TOEFL iBT に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後、(a)の方法を適用する。

(d) 以上の換算方法は、今回の試験のみ適用されるものとする。

(3) 受験上の注意

1) 受験票を必ず携帯し、試験中は常に机上に提示すること。

2) 各試験とも、試験開始前ないし定められた集合時間に試験場または指定場所（オンライン指定場所も含む）に集合すること。なお、試験場で実施する各筆記試験においては、試験開始30分後までの入室を認める。試験場で実施する面接においては、集合時間に遅れた場合は失格となる。オンラインで実施する口述試験及び面接においては、集合時間に遅れた場合に失格となる可能性がある。

- 3) 各試験においては、鉛筆及びその相当物、消しゴム、鉛筆削り、図などを描くために使用する簡単な定規以外は一切使用してはならない。ただし専門科目 I（筆記試験）の計画系・設計製図の設計製図の試験においては、下記 6) ii) に記載した用具も使用することができる。
- 4) 時計などのアラームや携帯電話などの通信機器の電源は、あらかじめ切っておくこと。
- 5) 試験会場で使用が不適切と判断されたものに関しては、その場で使用を禁ずることがある。
- 6) 各試験科目に関する受験上の注意事項は下記の通りである。

i) 専門科目 I（筆記試験）〔一般選抜（普通入試）、社会人特別選抜〕

(1) 計画系・設計製図, (2) 環境系（設備・環境）及び(3) 構造系（構造・材料）の 3 分野から 1 分野を選択し解答する。分野の選択方法及び提出期限については後日指示する。

ii) 専門科目 I（筆記試験）の「計画系・設計製図」に関する注意事項

- ・ 最初の 1 時間に計画系（歴史・意匠・建築計画・都市計画など）の試験を行い、10 分間の準備時間の後に 4 時間の設計製図の試験を行う。計画系の試験は 5 問から 2 問を選択して解答する筆記試験であり、設計製図の試験は即日設計による実技試験である。なお、計画系と設計製図の配点比率は 3 : 7 である。
- ・ 設計製図の試験における図面作成はすべて手書きによる。コンピューター、ワープロなどの利用や切貼り、貼込みは認めない。
- ・ 設計製図の試験用紙は A1 版のホワイトケント紙である。
- ・ 試験会場に用意された製図板、平行定規及び設計製図の試験用紙とエスキス用紙を用いて図面を作成すること。
- ・ 設計製図の試験においては、当該の試験において認められた筆記具などの他、図面作成に必要なスケール、着色用具などの一般的製図用具及び卓上計算機の使用を認める。なお、使用できる着色用具は黒鉛筆、色鉛筆、インキングペン、マーカーペンに限る。

(4) 入学定員

都市環境学専攻の募集人員は「学生募集要項」の記載のとおりであるが、建築学コースには約 35 名まで入学が可能である。なお、一般（推薦）での合格者は若干名である。

(5) 希望指導教員及び専門科目 I（筆記試験）受験分野の申告について

受験者は、別ファイル「指導教員および教育研究内容の一覧」を参照の上、記載されている建築学コースの教員から指導を希望する教員を選び、その氏名を後日連絡される指示に従い申告すること。第 2 希望の指導教員まで申告することができる。また、一般選抜（普通入試）・留学生特別選抜・社会人特別選抜受験者は、専門科目 I の受験分野を選択し、申告すること。受験分野の選択方法及び提出期限については後日指示する。

2. 博士後期課程の案内

2.1 持続発展学コース

(1) 受験に際しての注意事項

【出願前の内諾手続き及び試験分野の設定等について】

- ・ 受験者は、別ファイル「指導教員および教育研究内容の一覧」を参照の上、持続発展学コースの教員から希望指導教員を1名選び、その氏名を志願理由書の「指導教員名」欄に記入すること。なお、博士後期課程を受験する者は、必ず出願前に希望指導教員に連絡をとり、受験の内諾を得た上で出願すること。
- ・ 出願書類及び希望指導教員との連絡状況にもとづき、一般選抜及び留学生特別選抜における専門科目の試験分野（3分野）を設定する。社会人特別選抜における口述試験の試験内容については、希望指導教員より個別に通知する。

【対面で実施する試験について】

- ・ 筆記試験を受験する者は、試験場に試験開始30分前までに入室すること。遅刻の場合、専門科目は試験開始60分後まで入室を認める。ただし、遅刻が本人の責めに帰さない場合は、入室や試験終了時刻の繰り下げを認めることがある。なお、試験終了時刻前の退室（早退）は認めない。口述試験及び面接については遅刻を認めない。
- ・ 筆記試験に際しては、黒鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・鉛筆削り・時計以外を使用してはならない。辞書等（電卓あるいは辞書機能付き携帯電話・時計等も含む）は使用できない。電卓に関しては、試験に必要な場合のみ大学側で準備する。

(2) 英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）を利用した試験科目「英語」の実施要領について

1. 試験の方法と注意事項

- (a) 試験科目「英語」は、TOEFL/TOEIC/IELTS スコアを次項「2. 換算方法」に従って換算することにより採点する。
- (b) 本試験で有効とする外部検定試験の種別、スコアシート原本、受験年月日、及び提出方法については、募集要項「6. 提出書類」及び「7.2（選抜方法等）都市環境学専攻」を参照すること。

2. 換算方法

- (a) TOEFL iBT からの換算は、上限200点、下限0点として以下の式を用いる。

$$\text{TOEFL iBT スコア} \times 2.92 - 83 = \text{換算点}$$

- (b) TOEIC からの換算は、上限200点、下限0点として以下の式を用いる。

$$\text{TOEIC スコア} \times 0.348 - 104 = \text{換算点}$$

- (c) IELTS からの換算は、一般的に用いられる換算表に基づいて TOEFL iBT に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後、(a)の方法を適用する。
- (d) 以上の換算方法は、今回の試験においてのみ適用されるものとする。

(3) 口述試験・面接

口述試験・面接の控室、開始時間等の詳細については、試験当日配布する資料を確認の上、指示に従うこと。なお、面接は持続発展学コースの全教員による面接である。

(4) 入学定員

「学生募集要項」の記載では、都市環境学専攻の募集人員は21名であるが、持続発展学コースには約11名まで入学が可能である。

2.2 建築学コース

(1) 試験内容について

志願者は指導希望教員にあらかじめ連絡を取り、受験科目について指示を受けること。

1) 専門科目（筆記試験）[一般選抜、留学生特別選抜]

志望する専門分野の筆記試験である。

2) 口述試験

希望する指導教員を中心とする建築学コースの教員により、これまでの研究内容及び後期課程での研究計画に関連する事項について試問を行うとともに、専門に関する能力について口述による試験を行う。

3) 面接

建築学コースの教員により、これまでの研究内容及び後期課程での研究計画に関連する事項について試問する。

(2) 英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）を利用した試験科目「英語」の実施要領について

(a) TOEFL/TOEIC/IELTS のスコアシートは、原則として出願書類提出時にその原本を同封するものとする。原本を提出しない場合、試験科目「英語」の点数が零点になるので十分に留意すること。なお、英語を母語とする者については、TOEFL/TOEIC/IELTS のスコアシート原本の提出を免除し、口述試験と面接試験の結果に基づき試験科目「英語」の採点を行うので、募集要項「7. 選抜方法等」の指定期日までに指導希望教員に連絡すること。

(b) 今回の試験で有効とする外部検定試験の種別、受験年月日、及びスコアシート原本の提出方法については、募集要項の「6. 提出書類」及び「7.2（選抜方法等）都市環境学専攻」を参照すること。

換算方法

(a) TOEFL iBT からの換算は、上限を 200 点、下限を 0 点として、以下の式を用いる。

$$\text{TOEFL iBT スコア} \times 1.99 - 26 = \text{換算点}$$

(b) TOEIC からの換算は、下限を 0 点として、以下の式を用いる。

$$\text{TOEIC スコア} \times 0.227 - 35 = \text{換算点}$$

(c) IELTS からの換算は、一般的に用いられる換算表に基づいて TOEFL iBT に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後、(a)の方法を適用する。

(d) 以上の換算方法は、今回の試験のみ適用されるものとする。

(3) 受験上の注意

1) 受験票を必ず携帯し、試験中は常に机の上に提示すること。

2) 各試験とも、試験開始前ないし定められた集合時間に試験場または指定場所に集合すること。なお、試験場で実施する各筆記試験においては、試験開始 30 分後までの入室を認める。試験場で実施する口述試験及び面接においては集合時間に遅れた場合は失格となる。オンラインで実施する口述試験及び面接においては、集合時間に遅れた場合に失格となることがある。

3) 各試験においては、鉛筆及びその相当物、消しゴム、鉛筆削り、図などを描くために使用する簡単な定規以外は一切使用してはならない。

4) 時計などのアラームや携帯電話などの通信機器の電源は、あらかじめ切っておくこと。

5) 試験会場で使用が不適切と判断されたものに関しては、その場で使用を禁ずることがある。

(4) 入学定員

「学生募集要項」の記載では、都市環境学専攻の募集人員は 21 名であるが、建築学コースには約 10 名まで入学が可能である。

(5) 希望指導教員の申告

受験者は、別ファイル「指導教員および教育研究内容の一覧」を参照の上、記載されている建築学コースの教員から指導を希望する教員を1名選び、その氏名を後日連絡される指示に従い、申告すること。

2.3 2024年度および2025年度の指導教員・教育研究内容の一覧

別ファイルを参照のこと。

名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻（持続発展学コース）

2024 年度 博士前期課程入学試験（秋入学）学力検查出題範囲

一般 A（総合）・留学生特別選抜・社会人特別選抜

科 目 名		解答形式	主 な 出 題 範 囲
	分野 (出題数)		
英語		【全ての選抜】 TOEFL, TOEIC または IELTS のスコアを提出する。	
専 門 科 目	環境工学・ 環境政策 (3 問)	【一般 A】【留学生特別選抜】 左記 2 分野から合計 5 問を出題 するので、3 問選択して解答す る。(1 分野から 3 問選択して もよい)	地球温暖化・気候変動対策, 脱炭素社会・循環型社会, 環境と 経済, 国土・都市・交通と環境, 環境アセスメント, 生物多様 性保全, 防災・減災, 上下水道, 廃棄物処理, 都市の大気・温 熱環境, 住環境など。
	環境化学 (2 問)		資源・エネルギー化学, 化学熱力学, 電気化学, 物質の製造・ 循環利用・廃棄, グリーンサステイナブルケミストリー, 大気・ 水質・土壌汚染物質, 地球温暖化・オゾン層破壊・酸性雨関連 物質, 生活関連物質, 環境分析化学など。
小 論 文	(1 問)	【一般 A】【留学生特別選抜】 小論文 1 問について解答する。	環境問題, 社会・経済などに関する小論文で, 主としてその 論理性を問う。

※ 持続発展学コースの一般 A 入試は, 文系を含めた幅広い分野の出身者が受験できるよう配慮しています。

一般 B (土木工学系出身者向け)

科 目 名			主 な 出 題 範 囲
	分野 (出題数)	解答形式	
英語		TOEFL, TOEIC または IELTS のスコアを提出する。	
専 門 科 目	構造・ 材料工学 (3問)	左記 5 分野から合計 9 問出題するので、5 問選択して解答する。 1 分野から選択可能な問題は、2 問までとする。	材料の応力とひずみ、骨組構造物の解法、マトリックス構造解析の初歩、鋼構造の諸問題、コンリート構造、コンクリート材料の諸問題など
	地盤工学 (2問)		浸透、土の基礎的性質、圧密、せん断、斜面安定、支持力、土圧、各種室内土質実験とその設計への適用、軟弱地盤対策、地盤耐震工学など
	水工学 (2問)		静水力学、流れの基礎方程式、開水路・管路の流れ、波の基本特性と変形、風波、波圧と波力、河川・海岸構造物、河川工学、流出過程とモデル、河川計画
	計画学 (2問)		土木計画における統計的・数理計画的手法、費用便益分析、地域計画、都市計画、土地利用計画、交通工学など
	環境工学 (2問)		国土開発・利用に伴う環境の保全と管理、環境影響評価、衛生工学、大気汚染、水質汚濁、土壌・地下水汚染、環境システム工学など
基 礎 科 目	小論文 (1問)	小論文 1 問・応用数学 3 問の合計 4 問から、3 問を選択して解答する。	社会、経済および環境問題などに関する小論文で、主としてその論理性を問う
	応用数学 (3問)		微分・積分、ベクトル解析、行列と行列式、および確率・統計の基礎的事項ならびに工学への応用

名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻（建築学コース）
2025年度 博士前期課程入学試験（第I期）学力検查出題範囲

一般（自己推薦）

科目／分野	解答形式	主な出題範囲
英語	TOEFL / TOEIC / IELTS スコアシート 原本を提出する。	提出されたスコアから、英語に関する基礎的能力を評価する。
専門科目（口述試験）	口頭発表と発表内容に関する質疑応答。	これまでの学習等活動の内容と入学後の学習や研究等に関する内容を問う。

一般（普通）、留学生特別選抜、社会人特別選抜

科目／分野	解答形式	主な出題範囲
英語	TOEFL / TOEIC / IELTS スコアシート 原本を提出する。	提出されたスコアから、英語に関する基礎的能力を評価する。
専門科目 I	計画系・設計製図 環境系、構造系の3分野から事前に申請した1分野を選択し、筆記により解答する。	計画系では、西洋・日本建築史、近代建築史、建築意匠、建築計画（各種建物）、建築構法、人間工学、都市計画、建築社会システムなどに関する専門的内容を問う。 設計製図では、基本設計程度をまとめるのに必要な建築学の全般的知識を問う。
	環境系	建築環境工学（熱環境、空気環境、光環境、音環境）や建築設備工学（空気調和、給排水、搬送、電気）、人間環境工学（心理・生理反応、意識）に関する専門的内容を問う問題
	構造系	構造力学、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、建築基礎・地盤工学、構造計画、構造設計法、耐震工学、都市防災、建築材料、建築施工に関する専門的内容を問う問題
専門科目 II	選択肢または穴埋めを基本とした解答形式。	建築学の主要分野である意匠・歴史・計画・設備・環境・構造・材料について、大学院での研究分野に関わらず知っておくべき知識や能力を問う基礎的問題

2025年度・環境学研究科都市環境学専攻持続発展学コース博士前期課程・博士後期課程
「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」の案内

名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻では、工学研究科土木工学専攻と協力して、「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」を実施している。本プログラムは、アジア・アフリカ諸国が直面する様々な環境問題の解決を担う次世代の環境リーダーの育成を目的とするものである。

下記の説明および資料を参照の上、参加を希望する場合には、必要な手続きをとること。

対象学生

博士前期課程・博士後期課程に入学する留学生および日本人学生

プログラムの概要

※ 詳細については、ホームページ (<https://www.civil.nagoya-u.ac.jp/nugelp/index.html>) を参照のこと。

- ・ 地球環境問題や持続可能な開発問題を対象に、事象の理解、対策技術の理解・修得、制度設計・政策運営の能力獲得のための教育を実施する。講義等は英語で行う。
- ・ グローバル研究インターンシップを必修科目とする。旅費等の援助については指導教員と相談すること。
- ・ 留学生と日本人が相互に啓発しあいながら共に学び、国際的コミュニケーション能力を向上させる。
- ・ 博士後期課程の学生は「統合環境学特別コース」に準じたカリキュラムで専門的且つグローバルな視野を培う。
- ・ プログラム所定の学業を修めた学生には、修士学位或いは博士学位に加えて、プログラム修了認定証を授与する。

参加希望から選考、参加までの流れ

- ① 志願調査票のプログラム参加希望に関する欄に、参加希望である旨記入すること。
- ② 入学時に、プログラム専用のガイダンスを実施する。
- ③ 入学者のうち、参加希望者を対象に面接を実施する。入試成績、英語能力、意欲などを総合的に評価して、プログラム学生を選考する。
- ④ プログラムから選考結果を通知する。

※ 選考案内を含むプログラムからの連絡は、基本的にメールで行う。参加希望の受験者は必ず、志願票に確実に受信できるメールアドレスを記載すること。特に入学手続前後は、定期的にメールを確認すること。

注意事項

- ・ プログラムの博士前期課程に所属する学生は、プログラム指定科目（グローバル研究インターンシップ2単位を含む計10単位）を履修することが求められる（学位取得に必要な単位としてカウント可能）。
- ・ プログラムの博士後期課程に所属する学生は、プログラム指定の後期課程の授業科目から、基礎環境学講究1と臨床環境学研修1を含む10単位以上を履修することが求められる。
- ・ プログラム学生は通常の学生と同様に、都市環境学専攻持続発展学コースの教員の中から、自分の専門や興味にあわせて指導教員を自由に希望することができ、それぞれの研究室に所属して専門分野について学びながら、プログラム履修を進める。プログラム参加については、**事前に希望指導教員に相談すること。**
- ・ プログラムが提供する科目は一部を除いて開放されている。したがって、プログラム参加学生以外の一般学生も受講可能である。

問い合わせ先：名古屋大学国際環境人材育成プログラム（NUGELP）

〒464-8601 名古屋市千種区不老町D 2-1(150) 名古屋大学環境総合館223号室

E-mail: envleaders@urban.env.nagoya-u.ac.jp

社会環境学専攻

1. 社会環境学専攻の分野，出願に当たっての注意

1.1 社会環境学専攻の分野，出願に当たっての注意

社会環境学専攻は、それぞれカリキュラムの異なる5講座によって構成されています。学生は、それらの各講座のいずれかに所属し、指導教員の指導の下で修士論文または博士論文を作成することになります。所定単位を履修し、修士論文ないし博士論文の試験に合格すると、修士または博士の学位を取得できます。社会環境学専攻で取得できる修士ないし博士の種類は環境学・経済学・法学・社会学・地理学のいずれかで、それぞれ単位取得の要件が異なります。各講座の説明については、社会環境学専攻のホームページをご覧ください。

(<https://www.env.nagoya-u.ac.jp/dept/society.html>)

また、過去の入試問題は、環境学研究科のホームページの「入試」をご参照ください。

(<https://www.env.nagoya-u.ac.jp/admission/index.html>)

環境政策論，経済環境論，環境法政論，社会学，地理学の5つの分野で学生を募集します。各分野は各講座にそれぞれ対応します。社会環境学専攻の受験にあたっては、それらから志望する分野（あるいは指導を希望する教員）を1つ選ばなければいけません。第2志望分野の募集は行っていません。

入学後、指導教員とよく相談して学修・研究計画を立てる必要がありますので、どの分野を志望するか、どの教員の指導を希望するかということについて、受験前によく検討しておくことが必要です。

なお各教員の教育研究内容を別ファイルに掲げておきますので、検討の際に参考にしてください。とくに指導を希望する教員が決まっている場合、あるいは教育研究内容について質問がある場合は、受験前に、各教員まで遠慮なく連絡してください。

別ファイルで*印が付いている教員を指導教員として希望する場合は、志願理由書の「指導教員名」欄に教員名だけでなく志望分野名を明記するようにしてください。

1.2 2024年度および2025年度の指導教員・教育研究内容の一覧

別ファイルを参照のこと。

2. 入学試験について

社会環境学専攻の入学試験は、大きく、筆記試験と口述試験とから構成され、筆記試験は各分野の専門内容に関する問題を出題します。自己推薦入試および後期課程の社会人特別選抜については、口述試験のみが課されます。また、前期課程の一般選抜、留学生特別選抜では、英語試験を行います。英語試験は、提出された英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）のスコアシートをもとに採点します。

筆記試験では、それぞれ入学志望分野の出題に解答しなければいけません。試験時間、各分野の出題範囲、その他の注意事項などについては、学生募集要項をご覧ください。なお口述試験は、基本的に分野ごとに行われます。

筆記試験などの試験会場については、後日、E-Mail等で受験生本人に直接通知されます。なお、筆記試験と口述試験は名古屋大学内の試験会場で受験する対面式で行う予定です。

指導を希望する教員が決まっている場合、あるいは研究したい内容や教員の教育研究内容について質問がある場合は、受験前に各教員に連絡するようにしてください。特に、留学生の場合は、必ず指導希望教員に事前に連絡をしてください。

3. 前期課程の入学試験（一般選抜、留学生特別選抜）における英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）の利用について

1. 試験の方法と注意事項

- (a) TOEFL/TOEIC/IELTS のスコアシートは、原本を提出するものとします。原本を提出しない場合、試験科目「英語」の点数が零点になりますので十分に留意してください。
- (b) 試験科目「英語」は、TOEFL/TOEIC/IELTS スコアを次項「2. 換算方法」に従って換算することにより採点します。
- (c) 本試験で有効とする外部検定試験の種別、スコアシート原本、受験年月日、及び提出方法については、募集要項「6. 提出書類」及び「7.3（選抜方法等）社会環境学専攻」を参照してください。
- (d) 入試までに開催される TOEFL/TOEIC/IELTS の試験は、回数が限られています。これから受験する者は試験開催日程に注意してください。

2. 換算方法

- (a) TOEFL iBT(Home Edition を含む)からの換算は、Educational Testing Service が公表している Total Score Comparisons に基づいて TOEFL (PBT) に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後、(d)の方法を適用します。

https://www.kuleuven.be/english/admissions/lang/TOEFL_iBT_Score_Comparison_Tables.pdf

- (b) TOEIC からの換算は、以下の式を使用して TOEFL (PBT) に換算した後、(d)の方法を適用します。

$$\text{TOEIC スコア} \times 0.348 + 296 = \text{TOEFL (PBT) スコア}$$

- (c) IELTS からの換算は、一般的に用いられている換算表に基づいて TOEFL (PBT) に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後、(d)の方法を適用します。

参考：<https://au-ryugaku.com/comparison-table/>

- (d) TOEFL (PBT) からの換算は、657 点以上を満点に相当する 100 点、350 点以下を 0 点とします。TOEFL (PBT) スコアが 657～350 点の場合、以下の式を用います。

$$\frac{\text{TOEFL (PBT) スコア} - 350}{(657 - 350)} \times 100 = \text{換算点}$$

- (e) 以上の換算方法は、今回の試験のみ適用されるものとします。

臨床環境学プログラムの案内

臨床環境学とは、環境学研究科によって提案された新しい環境学のコンセプトであり、地域の持続可能性に関する課題の解決に直接貢献する、異分野連携・トランスディシプリナリな研究・実践を言う。臨床環境プログラムは博士後期課程でのそのような研究・実践ができる人材を育成するプログラムとして、研究科附属持続的共発展教育研究センターが主体となって実施している。臨床環境学研修では、地域の現場に入り、地域課題の発見とその解決に向けた処方箋の提案を行う。SDGs 基礎セミナーでは、臨床環境学とは何か、また持続可能な開発とSDGsの基礎的内容を学ぶとともに、自身の研究テーマがSDGs達成にどう貢献できるかを考える。所定の単位を取得した学生に修了証を授与する。

1. 本プログラムは、環境学研究科の博士後期課程の各専攻（履修コース）に入学または進学する者が、各自の専攻・履修コースのカリキュラムに加えて、本人の希望により選択するものである。
2. 希望者は入学志願調査票の所定欄に ✓ を記入すること。
3. 主旨は専門分野の勉強・研究だけでなく、異分野連携で地域の課題解決に貢献する臨床環境学に積極的に参画して視野を広げようとする学生を育てることにある。
4. 修了要件：臨床環境学研修（3単位）とSDGs基礎セミナー（2単位）の5単位を履修すること。
5. 本プログラムの修了者には学位とは別に修了証を授与する。
6. 臨床環境学プログラムに関連した後期課程授業は次の通りである。いずれも、研究科共通科目である。
 - (ア) 臨床環境学研修（3単位）国内のフィールドにおいて、異分野の教員・学生から成るチームが、問題特定から解決策の策定までの実践的な研修を進める。
 - (イ) SDGs基礎セミナー（2単位）臨床環境学とは何か、また持続可能な開発とSDGsの基礎的内容を学ぶとともに自身の研究テーマがSDGs達成にどう貢献できるかを考える。

知の共創プログラム特別コースの案内

環境学研究科では SDGs に代表される喫緊の環境問題の解決に向けて、行政や企業、NPO などの社会のさまざまな現場で問題に直接向き合う方々と共に、超学際的な（大学の研究者と社会のさまざまなステークホルダーが、研究計画の立案から成果の社会還元まで、研究のあらゆる段階で直接連携する）共同の取り組みを推進するために、2022 年度から、社会人博士後期課程の入学者を対象にして、知の共創プログラム特別コースを開始した。以下、知の共創プログラム特別コースについて説明する。入学試験の詳しい内容については、募集要項の「7.4 知の共創プログラム特別コース」を参照すること。

1. 本特別コースは、環境学研究科の博士後期課程を社会人特別選抜の枠組みで受験する者の中から自ら希望する者を対象としており、本特別コースへの入学・進学を希望する者は、出願時に本コースを「専願」もしくは「併願」で選択しなければならない。本特別コースへの入学・進学を希望する者は、志願調査票の所定欄に ✓ を記入すること。
2. 本特別コースの入学・進学者の定員は、毎年、若干名である。
3. 本特別コースへの入学・進学を希望する者は、出願時に提出する「研究計画書」（別ファイル様式）の中で、主旨導教員及び主旨導教員とは異なる専門性を有する教員からなる集団指導チームの構築状況を記入する必要がある。そのため、募集要項で定めた期日までに主旨導教員と研究計画書の内容の相談を開始し、出願までに主旨導教員から研究計画書の内容の承諾を得ておかなねばならない。集団指導の目的は、多分野の複数の教員と協力することで、学際的（多分野融合型）アプローチによる問題解決型の研究を可能にするためである。
4. 本特別コースの入学・進学者に対しては、授業料相当額の研究費が、主旨導教員の研究室に、本特別コースの大学院生自身による使用を目的として、配分される（本人が希望しない場合は、辞退することも可能である。研究計画書の様式の所定欄に ✓ を記入すること）。但し、配分予定額を上回る希望者がいる場合、研究費の減額を行うことがある。また、入学料相当額の研究費は、特に配分されない。
5. 本特別コースの入学試験は、①研究計画書の書類審査と口述試験により研究内容の超学際性（社会と大学との連携の内容）を審査する試験と、②本人の学力を審査する各専攻での試験（日程と実施方法は、募集要項及び受験案内を参照のこと）の2段階からなる。①の口述試験はオンラインで実施され、日程の詳細は受験生と相談の上、設定される。
6. ①の口述試験は、15分間の研究計画のプレゼンテーションと15分間の質疑からなる。
7. 本特別コースを「専願」で出願した者で、①で不合格となったものは、②に進むことはできないが、本特別コースを「併願」で出願した者は、①で不合格になっても、通常の社会人特別選抜の枠組みで、②の各専攻の試験を受験することができる。
8. 本特別コースの入学・進学者は、研究科共通科目「知の共創プログラム特別セミナー」の履修を必修とする。同セミナーの詳しい内容については、研究科ホームページならびにシラバスを参照すること。
9. 学位は、各自の所属する専攻（主旨導教員の所属する専攻）での取り扱いに従って審査・授与される。本特別コースの院生は、博士（環境学）もしくは博士（個別分野）の学位を取得することができる。